



日本の国立感染症研究所と IAVI が対感染症ワクチン開発を加速する グローバルなパートナーシップを発表

ニューヨーク、東京発 — 【2023 年 10 月 13 日】 — グローバルな医薬品開発パートナーシップ組織である IAVI¹と日本の国立研究機関である国立感染症研究所（「感染研」）は、この度、感染症に対するワクチンの研究開発における連携強化の覚書を締結いたしました。

両組織は、感染研が開発・提供するワクチンや抗体などの医薬品や新技術の臨床試験を、アフリカとインドで展開する IAVI の臨床研究拠点ネットワークで実施することを含む、幅広い共同研究開発における連携強化に合意しました。また、両組織間で研究者の人的交流を行い、研究人材育成へ貢献することも目指しています。

「ワクチン開発における官民パートナーシップのパイオニアである IAVI と覚書を締結できたことを大変嬉しく思います。IAVI は、ワクチン開発において優れた専門性と知見を持ち、特にアフリカでの臨床試験拠点パートナーのネットワーク構築の実績は高く評価されています。今回の連携強化は、特にパンデミックへの備えと対応という観点から、日本と当研究所のワクチン研究開発の取り組みに寄与することが期待されます。IAVI とのパートナーシップが実を結ぶことを願っています」と感染研の脇田隆字所長は述べています。

「日本政府は 10 年以上にわたり、HIV ワクチン開発における IAVI のかけがえのないパートナーであり、国内外でグローバルヘルスの研究開発を主導する主要なリーダーです」と、IAVI プレシデント兼 CEO のマーク・ファインバーグ医学博士は述べています。「私たちは、長い歴史と卓越した業績を持つ日本の代表的な研究機関である感染研と覚書を締結することを大変光栄に思います。この合意は、感染症と闘う私たちの共通

¹旧称 International AIDS Vaccine Initiative（国際エイズワクチン推進構想）

目標へのコミットメントを一層強固にするものであり、今後、感染研との協力のもと、グローバルな研究開発の加速へ寄与することができればうれしく思います」

日本政府は 2010 年から、IAVI の増殖型ウイルスベクターを用いた HIV ワクチン研究に多額の投資を行っています。その先鞭は、日本発技術であるセンダイウイルスベクター技術を使って、現在感染研の副所長である俣野哲朗博士が開発した HIV ワクチン候補であり、この HIV ワクチン候補は、IAVI がルワンダ、ケニア、英国で臨床試験を実施しました。当時、アフリカで臨床試験を実施した最初の日本発のワクチン候補でした。その後、日本政府からの継続的な支援により、IAVI は増殖型ウイルスベクターの技術を、新型コロナウイルス感染症やラッサ熱など緊急なグローバルヘルス脅威となる感染症に幅広く応用しています。

両組織間の新しいパートナーシップによって、日本と日本の研究者によるグローバルヘルス研究開発への参画促進が期待されます。

* * *

国立感染症研究所について

国の機関である感染研は、感染症を制圧し、国民の保健医療の向上を図る予防医学の立場から、広く感染症に関する研究を先導的・独創的かつ総合的に行い、国の保健医療行政の科学的根拠を明らかにし、また、これを支援しています。感染研の機能には、研究業務、感染症のレファレンス業務、感染症のサーベイランス業務、国家検定・検査業務、国際協力関係業務、研修業務、アウトリーチ活動があります。

IAVI について

IAVI は、HIV・エイズ、結核、新興感染症など、グローバルヘルスの緊急な保健課題に取り組む非営利の科学研究組織です。IAVI のミッションは、科学の新発見を、世界でそれらを必要としている人々に、入手可能な医薬品として届けることです。

メディア・コンタクト

Karie Youngdahl

Executive Director, Global Communications, IAVI

kyoungdahl@iavi.org

国立感染症研究所 総務部調整課

info@nih.go.jp